

## 素盞鳴（素戔鳴：すさのお）神社

祭神：素盞鳴命・日良麻呂命（ひらまろのみこと）・譽田別命（ほんだわけのみこと：応神天皇）  
創建：702（大宝2）年

日久良志の里の東南占部山に702（大宝2）年、この里を開いた大中臣の日良麻呂命を祀り、「占部天神」と称して「国内神明帳」神位正五位下、社田八丁四方を献上する。その後、1325（正中二）年故あって牛頭天王宮を占部山に移し牛頭天王と称した。1871（明治4）年に素戔鳴神社に改称し、1872（明治5）年村社に列格した。

素盞鳴神社は、「牛頭天王（こずてんのう）・すさのお」を祭神とする祇園信仰の神社で日本各地にある。「鳴」の字は「鳴（口に鳥）」ではなく「鳴（口に鳥）」である。他に祇園信仰に基づく神社名称としては、八坂神社（八坂神社・弥栄神社）、八雲神社および須賀神社などがあり、時代や資料によって通用される。

「すさのお」は、素戔雄、須佐男、須佐之男、進雄とも書き、みこと（命、尊）を加えることもある。これらの神社は、江戸時代までは牛頭天王社と称され、牛頭天王を祭神としていた。総本社は京都の八坂神社または広峯神社である。祭神は素戔鳴命（すさのおのみこと）である。

素盞鳴命は「伊邪那岐（いざなぎ）神」によって生み出され、「天照大御神」と「須佐之男（すさのお）命」の弟神。兄弟合わせて「三柱の貴子（みはしらのうずのみこ）」とされている。荒々しい神話が多く、「須佐之男命」が「ヤマタノオロチ」を退治して得た「草薙の剣」は「三種の神器」の内の一つとしても有名である。

現在の国正、中村、定国および正名は、占部日良麻呂（ひらまろ）という国司が平安時代の866（貞観8）年に開墾をした。その名をとって4村を占部と呼んでいる。占部日良麻呂は素盞鳴神社（定国）に祀られている。開墾された田は「天水田」で雨水を頼りにする他はなく、日照りが数十日にも及ぶときは、農作物はすべて枯死して被害を受け、村民の苦しみが長く続いた。

中でも1597（慶長2）年の日照りは厳しく、村人はその日の食べ物にも事欠く有様で、田畑を捨てて村をでる人が続出した。これに心を痛めた正名の野本新十郎と中村の渡辺弥蔵が奮い立って、1598（慶長3）年から水路を開削し乙川の水を引こうと考えた。乙川と矢作川の合流する天白より占部までは8kmあり、莫大な経費がかかった。そのため、用水の工事には村人の反対が続いたが、2人は代々受け継いできた田や宅地をすべて売り払い、5年の歳月を費やし、1603（慶長8）年に完成した。伊勢神宮と神武天皇の遥拝所がある。神武天皇の遥拝所は珍しい。



素盞鳴神社 20150726



素盞鳴神社本殿 20150726



伊勢神宮と神武天皇の選擇所  
20150726



伊勢神宮と神武天皇の選擇所 20150726

